

タイの軍事政権、コメの保護縮小へ政策転換

コメの輸出大国タイにおいては、不安定な政治情勢により、コメをめぐる政策にも大きな影響があらわれています。インラック政権（2011 年～2014 年）では、大規模な担保融資制度が行われた結果、輸出価格は高止まりして輸出量は減少し、政府在庫と財政負担の増大が生じました。クーデターにより政権を奪取した現在のプラユット政権は、担保融資制度を廃止し、政府による農業保護を縮小する政策転換を行いました。

タイにおける政権交代とコメ政策の動向

年 次	摘 要
2001 ～06 年	タクシン政権 <u>担保融資の大幅拡大</u> （融資価格の引上げ、融資契約数量拡大）
2006 ～07 年	スラユット政権（反タクシン派） <u>担保融資の縮小</u>
2007 ～08 年	サマック政権（タクシン派）による <u>担保融資の再拡大</u> （融資価格引上げ、契約数量増加）
2009 ～11 年	アピシット政権（反タクシン派） <u>所得保障制度への転換</u> （保障上限量が設定された不足払い制度、市場メカニズムの活用）
2011 ～14 年	インラック政権（タクシン派） 所得保障制度を廃止して <u>担保融資制度を復活</u> （高い融資価格で、融資契約の上限量は無し）
2014 年 ～現在	プラユット政権（親反タクシン派） <u>担保融資制度を廃止して新しいコメ政策</u> （生産物市場への介入ではなく生産費削減等の生産支援を指向）に転換

担保融資制度：農民が生産したコメを担保に政府から融資を受ける制度だが、融資単価が市場価格よりも高い場合には、実質的には政府が担保であるコメをすべて買い取る価格支持制度となる

不足払い制度：市場価格が保証価格を下回った際に、その差額を政府が不足払いとして支払う制度

この成果の詳細については、農林水産政策研究所 Web サイトをご覧ください（以下参照）。

●平成 26 年度カントリーレポート

プロジェクト研究〔主要国農業戦略〕研究資料 第 4 号（2015 年 3 月）

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/project/attach/pdf/150331_26cr04_01_tha.pdf

●農林水産政策研究所レビュー No.58（2014 年 3 月）

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/attach/pdf/140331_pr58_03.pdf

●研究成果報告会（2015 年 3 月 17 日）

https://www.maff.go.jp/primaff/koho/seminar/2014/attach/pdf/150317_01.pdf

[2015 年度 研究ピックアップ]